

## 進捗状況の概要（1 ページ以内）

## 「学内の実施体制」

“安全・安心志向型”の新しい複合融合教育コアカリキュラム（TCC）の構築を目指し、本校教職員・他高専教職員・学生・地域企業の方達を含めた、合計5回のワークショップを通じて本校の特色と課題を明確にしなが、3つのポリシーの原案を策定した。3つのポリシーは、平成29年度に教育改善IR室を設置し、その分析結果に基づき改訂・再構築される予定である。さらに“安心・安全”志向型技術者リテラシー教育プログラム推進室を設置し、これによりTCC（高専機構モデルコアカリキュラムを包含した“安全・安心志向型”の新しい複合融合教育コアカリキュラム（TCC）の策定やICT活用教育の推進を行う体制が整った。また教育改善IR室を設置することにより、本校の教育内容、教育手段、学習環境等について恒常的に点検・評価することが可能となり、その結果に基づく継続的な教務運営が期待できる。

また大学教育再生加速プログラム（AP）実施ワーキンググループ（APWG）を設置し、その審議に基づき、学生の主体的な学びを促進する場として学内4カ所にラーニング・コモンズの設置を行った。さらに“安心・安全”志向型技術者リテラシー教育プログラム推進室の決定に基づき、FD・SD活動を計画的に実施する体制を整えた。

## 「中心となる取組」

学内外で開催された各種研修会への参加により、学生の主体的「学び」が保証された授業の実践に向けて、教員には「主体的学び空間」の創出に必要な知識・スキル、いわば講義力の向上・スキルアップと改善に向けた各種研修を学内で企画・立案し、学内におけるFD活動全体の活性化と強化を図った。

## 「取組の成果」

先進的取り組み校の訪問調査により、教育の質の保証のために、分野的横断能力や実験・実習スキルの評価指標等の開発と実践を行い、いくつかの高等教育機関と情報共有を行い、その取組について成果を検証するとともに、Webシラバスシステム、学習管理システム（LMS）、到達度試験（CBT）などの先導活用を推進した。

## 「補助期間終了後の継続発展に向けた取組」

長岡技術科学大学との協働により、安全・安心な社会構築に貢献できるよう、危機管理に対する基礎知識や倫理観を専門分野によらず総合的に持つ技術者を育成するため、「システム安全アソシエイト資格」取得のためのe-learning教材等の準備に関して議論を行った。また中国四国地区高専が協働して「グローバル異文化理解」系の教科書を作成することを決定し、地域企業群の海外進出の現状を鑑みてグローバル化に対応できる人材育成を実現するため、授業で活用する教材の準備を開始した。

学生の主体的な「学び」としての、特に自学自習時間を的確に評価できる授業方法・内容に内応した学修単位を大幅に導入し、知識の確実な定着を効果的に図り集中して学修できるクォーター科目群の導入に向けて検討を開始した。これにより海外インターンシップ、山口大学COC+でのYFL（Yamaguchi Frontier Leadership）育成プログラムにおけるPBI（Project-based learning Internship）科目に対応可能な柔軟な学事歴への改善が可能となる。

## 「学内外への波及効果」

地域企業経営者、地方自治体、有識者、現役学生、卒業・修了生、後援会役員を含めた“安全・安心志向型”技術者リテラシー教育プログラム評価委員会を毎年度開催することにより、本事業における評価指標の内容及びその達成状況について評価を受けることができる体制を整えた。